

2009.1

発行 山形県立小国高等学校

Vol.48

小国高校 ジャーナル

2009年 元旦

www.ygt-oguni-h.ed.jp

新年明けましておめでとうございます

輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます
 本年も皆様方にとりまして
 幸多き、実り多き一年となりますよう心よりお祈り申し上げます

小国高校 職員一同

新年のあいさつ

明けましておめでとうございます。

昨年は、本校創立60周年の記念すべき節目を、多くのご来賓、町民の皆様から祝っていただき、教職員・生徒一同、気持ちを新たにして、さらなる飛躍に向けた心構えができましたこと、厚く御礼申し上げます。

また、先の町民報告会では、本校の特色ある教育活動の一端を、生徒たち自ら発表させていただき、子どもたちが地元の高校で充実した生活を送り、たくましく成長した姿を多くの方々にご覧いただくことができました。皆様からは、生徒たちへの励ましと高い評価をいただきましたが、子どもたちは自分たちを育ててくれた郷土を愛し、町にとって将来頼もしい力となってくれるものと信じております。

今年は丑年です。牛歩のごとく、一步一步しっかりと地面を踏みしめながら、小国高校の教育向上に取り組んで参りますので、今年も、皆様の変わらぬご理解とご支援をお願い申し上げます。



校長 齋藤裕司

生徒会新役員

生徒会長

今 竜哉
(2年2組)

副会長

佐藤 拓
(2年2組)

副会長

高橋昌史
(1年1組)

議長

木村麻菜美
(2年1組)

副議長

渡邊知美
(1年2組)

会計

木村智聡
(2年1組)

書記

矢部杏奈
(1年2組)

書記

笠原麻帆
(2年2組)

1年間のご支援・ご協力をよろしくお願いします

新生徒会長あいさつ 今 竜哉(2年2組)

新生徒会長の今竜哉です。小国高校創立から60周年たった今、節目を迎えようとしています。そんな年に会長の任を任せられたことはとても喜ばしくもあり、強く責任を感じます。年々活発化していく我が小国高校の取り組みを支えていただいている学校の先生方はじめ、小国町の皆様のご支援には感謝の思いでいっぱいです。

来年度の学校行事は、町民の皆さんにも楽しめる催しを考えています。今年度の生徒会執行部は良い意見を持った人たちが数多く集まりました。一人一人主張を持っている人が多く、意見をまとめるのが大変そうですが、執行部一同が協力し合って、楽しく、思い出に残る学校行事を企画していきたいと考えています。

まだまだ不安な点もありますが、よりよい生徒会作りに向けて今ある課題を解決し、小国高校始まって以来の最高の生徒会とだれもがうなずく活動をしていきたいと思ひます。

皆様のご協力を賜る場面も多々あるかと思いますがどうぞよろしくお願いいたします。

高校生の手による雑誌を発行

発刊までの活動を振り返って

・何度も取材を重ねたことで深く町や町民に関わることができ、小国の魅力はもちろん、抱える問題や課題も知ることができました。活動する以前は、小国町といえど少子高齢化で元気がないイメージでしたが、活動してみると実に情熱的な人たちが一生懸命に町を盛り上げようと活動している活気ある明るい町でした。今までは、そういう方々がいることさえ知りませんでした。雑誌づくりという広報活動を通して、今ではその一員になったような気がします。取材活動を通じてたくさんの方々に会い、私は人とのふれあいの大切さを学びました。今までの自分とは違う考えに気づいたり元気をもらえたりしました。今後も小国町で生きる若者として魅力を発信し続けたいです。



伊藤 祥希
(1年2組)

・いろいろな方々と一緒に活動を行い、小国町の人々の良さを知ることができました。温かさがあって、本当に小国町はいい町だと思いました。中でも、初めて座談会を企画・実施したことが印象に残っています。参加した大人の方々が言っていた「何かに向かって一生懸命に頑張っている自然と人の輪やつながりができてくる。」との実感溢れる言葉に感動しました。この活動で発見することができた小国町の魅力を将来もずっと大切に、地域に貢献していきたいです。



舟山 真
(1年2組)

・地域文化学を通して、たくさんの小国の魅力や文化に触れることができました。小国に住んでいるのに知らなかったこともたくさんあり、新たに発見することができて良かったです。取材を通してたくさんの人に出会えました。特に、金目そばを食べに行ったら「そばの館」創業当初から関わっている方々が来てくれて、生の声で金目の歴史や昔の村の状況を聞くことができた事に感謝しています。これからも小国の魅力を大切に、何かできることがあれば協力していきたいです。



伊藤 梨真
(1年1組)

・私は小国町出身ではないので活動の前は小国町について何ひとつ知りませんでした。しかし、雑誌をつくるための取材をたくさんしているうちに小国町の「食」や「自然」についてとても興味が湧きました。「温身平の森林セラピー」に実際に行って癒された小国町に古くから伝わる「からこ」を覚えてもらいながら一緒に作って食べたりもしました。小国町の自然も食も大いに満喫した楽しい活動でした。それらの魅力を発信しようと1ページ1ページ丁寧に雑誌を作りました。私たちの作った雑誌をひとりでも多くの方々に読んでもらいたいと思います。



井上 結香
(1年1組)



地域文化学4班(呉尚浩先生・東北公益文科大学)は「小国の魅力を発信する」というテーマで学習しました。小国町に伝わる地域文化を学ぶだけではなく、それらを「発信する」という活動を通して、生徒自身が若い感性で小国文化を共創する担い手となることを目指して、地域のあちらこちらに飛び出しました。

発信する媒体を話し合い、雑誌づくりを試みました。雑誌名は「Oguu (オグー)」です。取材の依頼や日程調節、インタビューや記録、原稿執筆や校正などなど、全てがはじめて尽くしの雑誌づくりに体当たりで挑みました。

特集を3つ掲載しました。特集1「もりのちから～温身平の森林セラピーを満喫～」特集2「雑穀への思い～雑穀をめぐる食のネットワーク～」特集3「小国の食は生きている」です。どの特集も地域の多くの方々に取材させていただいて作り上げています。

何とか12月の発行に至ることができました。小国町役場や開発センター、道の駅白い森おくになどに置かせていただいています。フリーペーパーですので、ご自由にお取り下さい。地域の温かさや活力、ならびに生徒たちの溢れる個性や感性など、小国町の魅力と小国高校生の勢いを感じていただければ幸いです。

この場をお借りしまして、生徒たちの取材に快くご協力いただいた地域の皆様に感謝申し上げます。



からこづくりを体験取材



森林セラピーの体験取材

